

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 木曜・校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	経済と経営(経済学説史) Economics and Business(History of Economic Theory)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスマワー 担当教員: 永田聖二 /Eメールアドレス: seiji@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 教育学部本館6階 /TEL: 2310 /オフィスマワー: 火曜 14:30 ~ 16:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500文字)			
<p>授業のねらい: アダム・スミスから始まるイギリス古典派経済学の理論体系が、一方では、投下労働価値説と価値分解説のかたちでリカードウに継承され、マルクスの価値形態論・剰余価値論・生産価格論に結実すること。他方では、支配労働価値説と価値構成説としてマルサスの有効需要論に受け継がれ、ケインズの有効需要論に焼き直されることを、それぞれの学説を体系的に考察することにより学ぶ。同時に、資本主義経済を理論的に解明する方法を会得する。</p> <p>授業方法: 講義</p> <p>授業到達目標: アダム・スミスの「国富」のとらえかたを理解する。投下労働価値説と支配労働価値説という、スミスに混在する2つの価値説が、リカードウとマルサスの学説に受け継がれ、それぞれ、マルクスの『資本論』とケインズの『雇用、利子および貨幣の一般理論』に結実することを理解する。</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字)			
<p>授業内容(概要)</p> <p>はじめに、アダム・スミスの『諸国民の富』から、「国富」の源泉としての労働の役割を考察する。つづいて、スミスに混在する投下労働価値説と支配労働価値説という対立する価値説が、それぞれ、リカードウとマルサスに継承されることを、穀物法論争との関連で考察する。さいごに、リカードウの投下労働価値説は、マルクスの『資本論』に、また、マルサスの支配労働価値説は、ケインズの『雇用、利子および貨幣の一般理論』に結実することを考察する。</p> <p>第1回 アダム・スミス『諸国民の富』 第2回 リカードウ『経済学および課税の原理』 第3回 リカードウの労働価値説 第4回 リカードウの賃金論 第5回 リカードウの差額地代論 第6回 穀物法論争とマルサスの有効需要論 第7回 マルクス『資本論』 第8回 マルクスの価値形態論 第9回 マルクスの剰余価値論 第10回 マルクスの生産価格論 第11回 転形問題 第12回 ケインズ『雇用、利子および貨幣の一般理論』 第13回 ケインズの有効需要の原理 第14回 ケインズの流動性選好論 第15回 全授業の総括(試験含む)</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	ケインズ『普及版 雇用・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社 宇野弘蔵『経済原論』岩波全書		
成績評価の方法・基準等	期末試験(100%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標	経済学の古典を学習することをつうじて、資本主義経済を理論的に解明するための基本的な考え方を会得する。		
備考(準備学習等)			